

(第3種郵便物認可)

2018年(平成30年)6月14日(木曜日)

「64年東京五輪の恩人」御坊の誇り

和田勇氏 顕彰の動き

御坊市の名誉市民第1号で、1964年東京五輪招致に尽力した和田勇氏（1907〜2001年）を顕彰する動きが、同市で広がっている。顔写真を車体に貼り付けた「ラッピングバス」が9日から運行を始めたほか、金融機関では、似顔絵をあしらった封筒を作ったり、店舗内に紹介パネルを設置したり。2020年東京五輪に合わせ、「東京五輪の恩人」と呼ばれた和田氏の功績をPRし、市民らに郷土への誇りを感じてもらおう。

（森本寿夫）



①和田氏の功績をPRするラッピングバス（御坊市で）
②経歴を紹介する展示（紀陽銀行御坊支店で）



ラッピングバス、銀行封筒、紹介パネル...

和田氏は、苦勞の末、米国で成功を収めた日系2世の実業家。幼少期の5年間を、両親の故郷である同市や由良町で過ごした。

スポーツとの関わりは、戦後すぐに開かれた全米水泳選手権で、強い反日感情から宿泊先を確保できなかった日本選手団を自宅で泊めるなど世話したことがきっかけ。64年東京五輪の招致活動では、私費で中南米諸国を回って支持を取り付け、開催実現に大きく貢献した。

2020年に東京で再び五輪が催されることになり、その前年のNHK大河ドラマで64年東京五輪が描かれることから、同市や各種団体で設立した和田勇顕彰会では、「作中で和田氏の功績が描かれるよう働きかけを」とPRに乗出した。

ラッピングバスは、顕彰会が御坊南海バスの協力を得て実施。車体には和田氏の写真と「東京にオリンピックを呼んだ男」「御坊ゆかりの国際

人」の文字を大書しており、市内や印南町を走る路線で運行。顕彰会長の吉田擴・御坊商工会議所会頭は「走る広告塔として、観光客にもアピールできる」と期待する。

こうした動きに呼応し、きのくに信用金庫御坊営業部では、和田氏のイラスト入りの現金用封筒を10万部作製。1日から、市内や由良、印南町の支店など8か所に設置している。日の丸を手に行進する日本選手団の前に笑顔の和田氏を描き、氏とゆかりの深い日米両国の国旗を添えた。

紀陽銀行御坊支店では5日から、店内に、生い立ちや功績を紹介するコーナーを設け、顕彰会が作った冊子などを並べている。また、和田氏の写真入りマグカップ150個を作り、新規に積み立てをした客への記念品として活用を始めた。同支店では「早速問い合わせがあり、新規契約にもつながった」と反響に手応えを感じている。